

神奈川県横浜市発「平成学園 はら幼稚園」

心の強い未来の子どもを創るために
はら幼稚園の「活力朝礼」とは？



将来大きな夢や目標に向かっていける心の強いたくましい子どもを育てるために、原幼稚園では「態度（しつけ）教育の実践」を掲げ、五つの柱「挨拶」「ハイという返事」「履物を揃える」「立腰（姿勢）」「食育」を重視している。



前回の旅で聖母病院のシスターからボーダーレスな世界を創ろうと言われたオイラ。今回の旅で立ち寄ったのは未来を創る子どもたちが大勢いる場所、学校法人平成学園 はら幼稚園だ。子どもたちを幸せにするために始められた職員向けの「活力朝礼」とは何か？ そこでオイラは、人の基本を創る「挨拶」の大切さ、人を変えようとする前にまず自分が変わる大切さを学んだんだ。

10分間の活力朝礼でエンジン全開！

「おはようございます！」
朝8時、寝ぼけまなこのオイラを迎えたのは元気いっぱい先生方の声だ。「ただいまより、職員朝礼を行います！」。今朝オイラははら幼稚園の活力朝礼に参加中。
あれ、司会の先生がストップウォッチを持つてる？ 理由はすぐにわかった。わずか10分間に、教育目標・教育方針の唱和、人材育成をテーマとする本の輪読と感想、連絡事項の確認・伝達、指名された先生

の10分間スピーチ盛りに盛りだくさんの内容を司会の先生がテキパキと仕切っていく。最後は司会の先生から「今日一日を最高の日にしましょう！」で全員がハイタッチ。オイラももちろん参加した。朝礼後にはすっかり眠気も消えて、ヨージ、今日もエンジン全開でやるぞー！

園長先生の声かけにこえ、幼稚園児一人ひとりが立ち止まって朝の挨拶。



子どもたちのために、職員を幸せにする

どうして活力朝礼を始めようと思ったのかな。園長先生で理事長でもある石井和則さんに聞いてみた。「子どもたちを幸せするにはどうしたらいいか、まず職員の先生方が働く喜びに満ちていれば自然と子どもたちに活力が伝わるのではないかと、子どもを変える前にまず自分たちが変わるからだ——そう考えた頃に大阪の晴美台幼稚園の先生・松井直輝さんの活力朝礼を見学し、これだ！と。当園では2008年9月から活力朝礼を始め、連絡事項を伝えるだけのマンネリ化した朝礼から、職員が自ら楽しむ朝礼に変わり、自然と

現場で実感する子どもたちの変化

朝から笑顔で元気になってモチベーションも高まったと感じます」
はら幼稚園では、良い習慣を身につけることが子どもたちの心を強くすると考え、特に「挨拶」を大切にしている。毎朝、園長先生自らが門で子どもやお母さんたちを迎え、大きな声で「おはようございます！」と声をかける。「活力朝礼を通じて先生方の挨拶が変わり、子どもたちの挨拶する力も自然とついてきました。それだけでなく、われわれの姿勢や子どもたちの変化を感じ取っていただき、お母さんたちとの信頼関係も増したように感じます」。

オイラは現場の先生にも活力朝礼の効果聞いてみた。「短時間に自身の濃い朝礼を行うことで、朝から脳が活性化することを実感しましたし、先生全員が持ち回りで司会をするので、話すこと・聞くことの訓練にもなります。1分間スピーチで思いがけず家族の話や聞くなど、職員同士がより深くたがいを理解するきっかけにもなりました」。
先生の変化はすぐに子どもたちに

しっかりと目に見えない根っこを創る

影響した。「子どもたちには普通のことを繰り返して伝えます。だからがお話している時は背筋をまっすぐに、その人のお顔を見てね」と。活力朝礼を始めた年から、子どもたちも目に見えて変わり、近くの小学校の先生からもはら幼稚園の卒園児は「当たり前ができる」と言われ、座って話を聞くことができ、はら幼稚園の卒園児にはそれできると。嬉しかったですね」。

少子化の時代、英語やパソコン教育など独自性を打ち出す幼稚園も多く、一方で親も子どもに分かりやすい成果を求めがちだ。しかし、園長の石井さんは「幼稚園は特別なことを教えるのではなく、マナー、ルールなどの基本を学ぶ場所。根っこがなければ、立派な幹は育たない」と語る。「先生だけでなく子ども同士で喧嘩しながらも、人としての大事なことを学ぶ。幼稚園は子どもの個人差が激しく、背が大きい小さい、元気な子、人前で話せない子、成長

園長の石井さんとクロッチ



活力朝礼
若い頃にはプロサッカー選手も目指した石井さんいわく「練習してこそスピーチで100パーセントの力が発揮できる。われわれにとって教育の現場で120パーセントの力を出すための訓練の場が活力朝礼です」。

はら幼稚園外観

